

◆**単元名**：第3章 世界の諸地域 4 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ

「②世界の食料庫」(教科書 pp.84-85)

◆**本時の目標**：

世界の食料庫であるアメリカ合衆国の、生産の現状と世界への影響力を理解させる。農業区分の地図と一例としての写真・動画を提示することで、具体的なイメージを定着させる。併せて輸出量のグラフから世界におけるアメリカ合衆国の位置づけを確認する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<p>●「①北アメリカをながめて」で既習の気温と降水量の特色(p.83・<b>4</b>)を復習する。</p> <p>【問】北アメリカの降水量にはどのような特色がありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>降水量の凡例で、東から西に進むにしたがって降水量が減少することを確認。</li> <li>念のため南から北へ進むにしたがって気温が低下することも確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書に収録の主題図(p.83・<b>4</b>)を拡大して投影。降水量別に色を提示し、タイトル(説明文含む)を最後に表示(西経100度と降水量500mm)する。</li> </ul>
展開 (35分)	<p>●教科書で北アメリカの農業地域(p.85・<b>5</b>)を参照し、適地適作の農業を確認する。</p> <p>【問】なぜ農業地帯の多くがアメリカ合衆国の東側に広がるのですか。</p> <p>【問】なぜ地域ごとに農業の種類が異なるのでしょうか。</p> <p>【問】大量生産をするために、どのような工夫をしているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然との関わりを踏まえて農業地域の特色を確認する。</li> <li>「自然可能論」の立場から、大型機械などによる効率の良い生産が行われていることを理解させる。</li> <li>デジタル教科書 p.84 の動画「アメリカの農業」と<b>2</b>・<b>3</b>の写真から、大規模な農業が行われていることを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書 p.85・<b>5</b>のしかけを活用し、最初に年間降水量500mmを提示し、この線を境に東側に農業地域の多くが広がることを確認。東側の地域を、南から農業区分ごとに示していく。</li> <li>デジタル教科書 p.84 の動画「アメリカの農業」で、センターピボットでの大規模な農業の一例を示す。続いて、<b>4</b>の円グラフから輸出の状況を確認する。</li> </ul>
まとめ (10分)	<p>●世界に占めるアメリカ合衆国の食料生産の割合を確認し、日本も輸入していることについて考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.84・<b>4</b>から、アメリカ合衆国が世界の食料庫であることと同時に、アメリカ合衆国に多くを依存する危険性に気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書 p.156・<b>2</b>の「日本の産業別人口構成の割合の変化」も同時に提示し、のちの授業で考える素材として予告しておく。</li> </ul>

### ◆指導にあたって：

○本時では、アメリカ合衆国の気候(気温・降水量)の特色を確かめ、同時に農牧業の地域区分を意識させながら展開を図る。なぜ西経 100 度より東側の地域を中心に綿花地帯、とうもろこし地帯、酪農地帯になるのか考えさせる。北アメリカの農業地域の様子を例に、「自然決定論」ではなく「自然可能論」として、機械化などの工夫や資本投下がなされていることを考えさせたい。

### ◆デジタル教科書活用のねらい：

- 本時では、デジタル教科書の「北アメリカの農業地域(p.85・**5**)」を活用しながら、臨場感を持たせる意味で動画「アメリカの農業(p.84)」を併せて活用し、興味・関心が高まるようにする。
- 「広大な肉牛の牧場(p.85・**6**)」の画像も利用して、輸入に頼っている肉類などの日常的な食材が日本の食卓に上がるまでの様子について生徒たちに意識させたい。



・画面下の年間降水量 500 mm と各農業区分をクリック：  
説明に応じて、各農業区分をクリックして表示していくことで、生徒にわかりやすく提示することができる。  
⇒ 年間降水量 500 mm を示し、図全体を見渡すようにする。  
・**1**の動画では、特にセンターピボットを俯瞰する。これを見せることで、大規模農業のイメージがわかりやすくなる。  
・中国の農業区分の地図(p.45・**5**)と並べることも可能。

### ◆生徒の反応：

- 農業区分ごとに提示することで、それぞれの位置に集中することができ、生徒の理解が深まったようであった。
- センターピボットの動画コンテンツ(p.84)によって、その規模や状況がわかりやすく伝わったようで、生徒は機械化された状況に圧倒されていた。
- デジタル教科書を活用することで、説明を展開する際に、注目すべき点を確実に指示できるため、生徒の理解が深まったようであった。

### ◆授業を終えての感想・今後の課題：

- 北アメリカの農業の状況について農業区分をそのつど提示することで、なぜ「適地適作」といわれるのか、整理しながら理解させることができた。
- 年間降水量が 500 mm 未満の地域でも、小麦の生産が可能になっていることをセンターピボットの動画と解説から理解させることができた。アメリカ合衆国の農業は気候との関わりをもちながら、技術と資本によって生産が可能な地域を拡大してきたことに気づくことができた。
- 他の農業区分に関する動画もあると、生徒はいつそう理解が広がると思う。